

## 令和元年度第2回 オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会 議事概要

1 日時：令和元年10月21日（月）13:30～15:40

2 場所：オーテピア 4Fホール

3 出席者：〔委員〕加藤勉委員、篠森敬三委員、常世田良委員

〔オーテピア高知図書館〕渡辺高知県立図書館長、貞廣高知市立市民図書館長 ほか

### 4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

① オーテピア高知図書館サービス計画の取り組み状況について

② その他

(3) 閉会

### 5 議事

(1) オーテピア高知図書館サービス計画の取り組み状況について

(2) 今後のスケジュールについて

資料1及び2についてそれぞれ事務局から説明後、委員との意見交換が行われた。

(3) その他

### 6 議事録

#### 【委員】

・先ほど県の館長さんともお話をしたが、全国的に注目されているのは、やはり県・市合築、県・市共同運営ということ。視察もたくさん全国から来ている。立ち上げの時には県と市の職員と一緒に研修を受けたりして一緒にやるんだという意識を共有できるが、段々時間が経つてくると人事異動もあり、当初の熱気とか理解度が落ちてくる傾向があって、日本の複合施設はほとんど複合していない。それもあって、そういうことにならないように、現状では実際の部門ごとに県・市の職員と一緒に事務室に座っているということをお聞きした。県・市の職員がひとつの図書館という業務を共同で行っていくという職員文化を維持し継続していくのが最も重要なポイントになるのではないか。

・前回伺ったときには、市内の図書館の分館・分室の利用状況はどうか、オーテピアに近い所の貸出しが減ってしまうということが起きていないかと尋ねたところ、それはないということだったが、一般的に中央図書館が大規模になると、相乗効果として分館・分室の貸出しが増えることが多い。それは強力に中央館がバックアップし始めるということ。公共施設は普通は点。美術館、博物館、生涯学習センターにしる、その建物の中でしかサービスをやっていない。図書館は唯一、面でサービスをする。図書館がネットワークになる。そこが根本的に違う。更に言えば、建物の中でサービスするのではなく、貸出しという非常に強力な情報提供のシステムを持っている。図書館以外の公共施設は、

その建物の中に入らないと主要なサービスは受けられない。図書館員の人たちでも、このことを理解していない人がかなりいるが、図書館は非常に特異な公共施設で、複数の施設とのネットワークでサービスする。そういう意味では、強力な中央図書館が出来たら、分館・分室もそのバックアップを受けて、サービスの質なり量なり変化していくというようになるので、今後その辺がどうなってくるのかなと思う。

・事務局からのご説明にもあったように、県立は県内の市町村の支援をすることがこの県・市合築の主要な目的。直接サービスは市民図書館がやって県立図書館は市町村立図書館の支援ということだが、この効果がまだ開館して1年だからあれだが、目標としては重要と思っている。

・現在の取り組み状況を聞いて、本当に頭が下がる思い。私も一年間で3,000平米の中央図書館と、400~500平米の分館を2つ、合計3館を一年間で開館した。立ち上げだけでも大変なのに、新しい試みを皆さんしていらっしゃる。大変な負荷がかかっていると思うが、前回もお話したように負荷がかかることによって体力がついてくる。スポーツの訓練と同じで、負荷がかかればそれなりにスキルも上がっていく。車は転がり始めるまではものすごく力があるが、転がり始めたらそれほど力はいらぬ。今まさに転がり始めるところ。新しいサービスを立ち上げるには物凄いエネルギーがいる。大変だと思うが、市内や県内だけでなく日本中から注目されているので「日本でトップクラスのサービスをしていくんだ」という誇りと自覚をぜひ持っていただきたい。先週は富山に職員研修で行ったが、やはり高知のことは皆さんよく知っている。来週は熊本に行くが、おそらくオーテピアのことを尋ねられると思う。日本中から注目されていることを考えていただきたい。

・レファレンスとリクエストは、図書館サービスの柱でこの2つは連携している。レファレンスをした結果、こういう資料がほしいということになりリクエストに結びついていく。ここを徹底的にやるのが重要。資料では特に書店で取り扱われていない資料を入手するためにご苦労されているとのことだが、委託の図書館ではこれをやらないから、こういった所は重要なポイントになると思う。また、レファレンス研修は若い職員よりも中堅の職員こそ外部研修の受講が必要。

・行政支援・課題解決型サービスの利用件数は、働き盛りの人たちが図書館に来ないと増えないので、いわゆる大人のための図書館という在り方。その中心になるのが、課題解決型サービス。図書館の生き残りがこれにかかっている。この課題というのは、地域の課題、つまり知事、市長、議員の人たちの課題。その人たちの課題に役に立つものだというのがポイントで、「だったら予算を付ける、人を付ける」という話になる。「課題解決型」と強調した名前を付けた理由はそこにある。「知事さん、市長さんの課題ですよ、そのことに図書館は役に立ちますよ」とアピールしないといけないから。それが生き残りにつながる。だから行政支援サービスは其中最も力を入れなければいけない。

・具体的には、係長級で一番仕事が忙しい人たちに対して公務員の仕事に対するレファレンスをする。そうすると「図書館は本当に行政の仕事に役に立つんだ」という評価を

持って、課長、部長になっていく。そういう人たちを作っていく。そのためには図書館員が日常的に庁舎に顔を出さなければならないような仕事を作ることがポイントで、顔を出す、通うことによって親しくなっていく。特に広報部門とは図書館は日常的に仲良くしてほしい。そういう戦略を立てて取り組んでいくことが必要。行政支援担当の方は、本庁の人たちに、図書館に対する理解を持ってもらうための切り込み隊長ぐらゐの気持ちをぜひ持ってもらいたい。ここは最も図書館の生き残りがかかっているところ。浦安では、図書館の閉館時間のあとも、本庁からの問い合わせには対応し、レファレンスをやっていた。

・ティーンズは、PR誌の発行とかはいろいろな図書館でやっているが、アメリカではヤングアダルトサービスは、児童サービスでやってはいけないというのが定説。黙っていても図書館に来るような子どもたち、黙っていても本を読むような子どもたちは相手にしていない。路上でピストルを振り回している、移民の子で英語が話せないといった子どもたちに、こちらから出掛けて行っていかに絡むか。金八先生みたいな図書館員が高校などに出て行って、高校生が抱えている悩みに寄り添うというのがそもそもヤングアダルトサービス。今は忙しいのでそこまでやれと言うのは酷ではあるが。

・次に多文化と障害者サービス。外国人と障害者の人たちに対するサービスは、実際中身は課題解決型サービスだと思っている。そういう方たちが地域で生きていくために必要な情報を提供する。本質的には課題解決型レファレンスサービス。例えば、一昔前の障害者サービスは、ビジネス支援だった。鍼灸の専門書を目の見えない方のために点訳したり、音訳したりしていた。そういうふうを考えていただければ分かりやすいと思う。今回の災害で、避難所に行く時にまったく外国語の説明がなくて、外国人は避難所にも行けなかった。外国人や障害者が普通に暮らしていくために情報を提供していく。特に外国人については、最近言われているのは、不法就労している人たちで、子どもたちの教育がロスになっているケース。最終的なセーフティネットが図書館と思っている。同じようなことと言えば、小・中学校で夏休みの最終日になると自殺が増える。不登校、保健室登校の問題。地域の図書館に来れば、登校したことにするようにしている教育委員会もある。不登校、引きこもりの子どもたちをどうするか、というのも図書館が対応していく部分ではないか。

・中心市街地活性化の商店街との協働というところで、商店街との関係はまさにビジネス支援。商店街に対するビジネス支援を図書館が積極的にやっていくことが、商店街との関係をより強くしていく。以前にもお話したが本当に売り上げが上がっているのか、商店街の人たちからの数字的な裏付けを図書館側で調べて自ら実証していくことが必要。今は車を回し始めている段階で本当に大変だと思うが頑張っていたきたい。

#### 【事務局】

・県立図書館の市町村立図書館への支援のお話があった。基本構想検討委員会の段階で県内の市町村立図書館の振興に向けて作る予定であった図書館振興計画を生涯学習課

がこのたび策定した。生涯学習課と一緒に県内の市町村図書館を回って図書館に対する意識、考え方について、首長さんにアプローチしていく取り組みをこれからもやっていきたい。

・さきほどもご説明したが、県内でも図書館の建て替えの計画が出てきており、今具体的には10市町村ぐらいが動いている。そういったところを重点的に支援協力し、少しでも県内の読書環境が良くなるようつなげていきたい。

#### 【事務局】

・分館について、委員から「普通は相乗効果的に増える」とのお話があったが、私はオーテピア開館前に「開館後は分館・分室の利用がすごく落ちるのではないか」と思っていたところ、結果的には横ばいだったのが意外だった。また、委員がおっしゃった「相乗効果的に増える」という点でもまだまだ。

・一番影響があったのは、オーテピア本館で借りた本を、分館・分室のボックスに返却することにより、分館・分室の場所を知っていただいたこと。これが第一歩。そこから分館・分室をのぞいてみて、本棚に魅力を感じてもらえれば、そこでも借りていただける。それを地道に続けていったら、分館・分室も増えて全体的に相乗効果があるかと思う。

・高知市は分館・分室はすべて地元の団体に運営を委託しており、地元の団体が雇用した職員に研修などもしている。全体的なスキルアップを含めて支援、バックアップをしていきたい。

#### 【委員】

・一般的に近くの図書館を使うという傾向があって、日常的には一つの図書館を使うことが多いが、強力な中央図書館ができると、今おっしゃったように、土日は家族連れで中央館に来てたくさん借りて、返すのは家の近くの図書館という形で複数の図書館を使うようになってくる。浦安がまさにそうで、平日と土日では使う図書館が違う。あるいは、目的によって中央館に行ったり、近くの分館ですませたりする。複数の図書館を使うようになって全体として利用が増えるという効果が出てくる。

・分館・分室の職員の人たちも「強力な中央図書館のバックアップがあるんだ」という気持ちで仕事をしていただければ全体的にアップしていくと期待している。

#### 【委員】

・全体的には非常に順調に進展しているという印象。それを踏まえて、この次のサービス計画をどうするかということに関心が移りつつある。現場の皆さんはよくご存知だろうが、オーテピア高知図書館の皆さんが努力していることは進んでいると思う。先ほどのお話にもあったが、いわゆる悪い期待というか、開館時は非常にブームみたいになって、そこからなだらかに下がっていくということが起こるのかなと危惧していたが、実

際には順調に進展している。特に、来館者数、貸出件数、レファレンス数は、前年度とこの4月から8月末日までの数字とを比較すると、下がってはおらずむしろ増加しており、全体として非常にうまくいっている。皆さん非常に仕事熱心なので、ここにたくさん課題を書かれているが、大きな面で見ると、オーテピア高知図書館は非常に順調だと考えている。

・ただ気になったところもある。ひとつは、みなさんの努力だけではなかなか回らないところで、例えばP20の物流の取り扱い件数も、今期4月から8月末はもうちょっと多くてもいいのではないか。開館時の状況を考えても49,000冊だが60,000冊位だったら順調かと思う。オーテピアの皆さんが努力しても、周りの関係者のこともあると思うが、そのところが今後改善されればと考える。

・それと資料提供。連携機関の資料で、「最初は送ってくれたが最近は送ってくれない」という話もあった。これも含めて、職員が努力してもついてきてくれるところとついてきてくれないところがある。オーテピアに直接来館されるような方は、非常に満足度が高いだろうと思う。そういった意味で、今後はそのへんにテコ入れが必要。課題、改善、アクションも示唆していただいているので、特に私から述べる必要はないと思うがその辺が少し気になった。

・他機関との連携ということ言うと、私個人が大学図書館をやっていることもあって、今後の重点課題として、オーテピアは情報発信のプラットフォームになっていければと思う。大学図書館は、それが大きな役割になっているところ。公立図書館はなかなかそのレベルにいかないところも多いが、今後そこへ行けたらいいと思う。多くの機関、団体、地元の皆さんの情報発信のサポートが今は主。各ユーザー、利用者さんだけでなく、館レベルでサポートしていく。そうやって、その部分でより緊密なサポートができていけば今後につながる。

・市民図書館全体の利用状況については、幸いなことに地元の図書館も順調に推移しているということなので、今後もこれが続いていけばいいと考えている。

・課題解決型ということでこの図書館が立ち上がったわけだが、図書館内でのレファレンスサービスなどのサポートが非常によくできている。今後は、県内、高知市の各機関と連携した形での課題解決型の方向性をどういうふう強化していくのが望ましいか考えている。

・基本的には非常に順調に進展しており、優れたアクションが準備されている。私としては、いくつか申し上げたことが現在の進捗状況における課題だと考えている。

#### 【事務局】

・市町村立図書館との間での物流については、もう少し多くてもいいのではないかと感じている。振興計画の関係もありこれから市町村立図書館、市町村訪問もやっていきたい。そういった機会に教育長、首長と話をしていく中で、図書館の利用について知られていないところもおそらくあると思うので、啓発していきながら利用を増や

していけたらと考えている。

#### 【委員】

・全体的に順調であるのは間違いないと思う。ただ、お蔵入りの計画もあるという記述があるので、今後の課題にして取り組み続けていただきたい。

・気になるところが2点。例えば、レファレンスの増加やいろいろな新しい催事が始まったことで、館外に出ていく業務が増え、職員の方の負担が増している傾向にあるのではないかと。無理を承知で動かなければならない時期かもしれないが、昨今の働き方改革という観点から、いい意味での合理化を視野に入れて、上手な処理の仕方をしていか、いい働き方改革を実践されている、そういう職場を目指していただきたい。サービスをする時に、サービスをする側が疲れ果ててしまっていては、きちんとお世話ができないのではないかとという危惧がある。市と県の職員が協力する形で合理化が進められる部分があるのではないかと。確かに身分の相違が厳然としてあるわけだが、ひとつの釜の飯を食っているのだから、人と人のお付き合いという感じでうまく協力して乗り切っていたらいいかと、ますます大変になってくると思う。

・利用者の方々から意見がかなり届いているであろうし、職員の方々も利用者の方々との接触を通して、様々な手応え、実感をお持ちだと思う。それらを参考にしてインタラクティブに、相互的な、双方向的な働きかけができるような、「要求は聞かしこちらからも情報発信する」というダイナミックなやり取りができる図書館運営がますます必要になる。先ほどの委員の話にもあったが、本庁とのやり取りも、一方的にこんな情報があると伝えるのではなくて、企画の面からお互いを支えあったり、協力を求めたりする。今、流行りのインタラクティブな関係を、利用者、支援対象の方々をつないでいく。そういうダイナミックな動きの中で、新しい方向性を目指していただきたい。

・こここのところ痛切に感じているのが、災害の惨状の報告。県内で、新しい基準で建てたかなり大きな建物のオーテピアを、具体的には「防災時にこんなことがオーテピアに期待できますよ」ということをアピールしてもいい段階に来ているのではないかと。もちろん、オーテピアといえども万能ではないが、「とにかく何かあったらオーテピアに避難できるし、当分のしげますよ」と。それが大事な情報だと思う。

・科学館があるので、災害のメカニズムの分かりやすい科学的な説明と、それに関する文献、新聞等で報道された被災者の方々の反応に関する情報、そういったものとリンクした講座や展示などの催しができやすい環境にあると思う。そういうことをお考えただいて企画していただければ、ますます地域の図書館、情報の拠点、問題解決のための組織としてPRできる。加えて実質的には、市民・県民の方々への利益供与になるかと思う。

#### 【事務局】

・レファレンスの増加について、司書研修も行っており、対応する際のスキルアップは

レファレンスのやり取りにおいてかなり重要なことだと思っている。司書に専門的な研修を行うことは引き続きやっていきたい。

・アウトリーチ担当がいて、館外に出て行って行政支援サービスなどをやっている。例えば出前図書館は、ここを会場として借り上げてもらう時は、ここで紹介をして下の図書館で見てもらって借りてもらうことができる。館外での出前図書館は、講座なりやっている先方にとってはメリットしかない。こちらが出て行って、本を並べてそこに来ている方に借りていただく。ただ、図書館にしたら当然本を持って行って撤収してというのがあり、そこで貸出しするととなると、講習をやっている間ずっと人を張り付ける必要がある。その件数が増えていくと、なかなか状況としては難しい。一定メリハリをつけて効果的にできないか検討しながらやっていきたいと考えている。

・利用者からの意見は、利用者の声の箱やカウンターで司書が聞いた内容など、すべて全員で情報共有できる形にしている。今お話にあった次の段階にどうやって持っていくかを考えていきたい。

#### 【事務局】

・防災については力を入れており、小学生に防災訓練をしたり、地域住民の方が雑用水を使えるように井戸まで作っている。断水、停電した時でもオーテピアは災害に強い建物だといったことも対外的にPRしていきたい。12月は全職員の防災研修ということで、南海地震とオーテピアの建物の防災について、2月には大規模津波災害の避難訓練をやる。防災には力を入れていきたい。

・同時に、住民の方に啓発することが大事。高知市民・高知県民は'98豪雨があり、河川の氾濫、浸水があった。この前、東日本大豪雨があったが、意識啓発につながるところで、科学館に平成30年8月に、「平成30年7月豪雨」のパネルができた。開館直後に。それを作った学芸員に「東日本大豪雨」のパネルも作ってみたいかと話したところ。パネルもタイムリーに作ると人が見てくれる。

#### 【委員】

・他の委員も心配されていたように、私も20数年現場にいたので、この進捗状況の通りやるとすると過重である。しかも全国で初めて、県の職員と市の職員が混在してするというのは歴史的な大実験。働いている皆さんは、業務命令で、そんなもんだと思ってやってらっしゃると思うが、全国の視察に来たり注目している方たちから見れば、歴史的な大実験の成否を見ている状況。

・仕事というのは、徹頭徹尾「人」だと思う。組織がどうなるかは人に始まって人に終わる。多くの図書館では正規の方と非正規の方がいる。非正規の方はアルバイトさんとか言って単純作業。給料は安いから仕方ないけれど、図書館全体のサービス、業務のレベルアップをする以上は、非正規の方たちの仕事もアップしていかななくてはならない。正規の司書はその先を行かなくてはならない。今まで司書がやっていた隙間の

仕事を非正規の人たちが担い、これを組織的にやらなくてはならない。「非正規の方たちもきちんと研修して、かなりの仕事をやってもらう」という仕組みが絶対に必要。ただ人手不足なので安い賃金でなかなか人材が集まらない。しょうがないのは承知だが、

- ・浦安は専門的非常勤として、非正規の方の時間給が少し高い3層構造になっている。一般的なアルバイトと、専門的な司書の資格を持ってほとんど正職員と同じ仕事をしてもらっている時間給の高い非正規の方と、正規の司書の三層構造になっている。時間給の高い非正規は必ずどこの自治体にもあると思うが、図書館にもそういうのをそろそろ考えないと、単純作業まで正規の司書がやっていたのでは、とても将来の展望は見えて来ない。

- ・これからの10年くらいで図書館は大変化する。おそらくロボットもAIも入ってくる。CTとかMRIによる画像診断をついに厚生労働省が2ヶ月前から日本でも承認した。だからもう日本では画像診断はAIが始めている。アマゾンG0のように顔認証、承認認証でカードもなしで買い物ができるような実験をアマゾンはやっている。図書館はリーダーが8~9割なので顔認証は最も馴染む。私の大学では、借りる本はバックに入れたままゲートを通るだけで貸出しできる。今度、多摩市の新しい図書館でそれを検討している。私のいとこのビル管理会社の社長は、清掃部門の人が集まらなくて本気でロボットを導入する研究をしていて、今度立命館大学の理工学部の先生に会いに来る。

- ・書架にセンサーを入れて全部の本がどこにあるのか管理するという話は、前からあったが、書架にセンサーを入れることが大変だった。最近では、20mごとにセンサーを天井からぶら下げれば、全部の本がどこにあるのか床に落ちていても分かるという実験がほぼ実証できている。全部の書架にセンサーを入れなくても、そのくらいの間隔でセンサーを入れれば全部の本の場所が分かるという時代がもう目の前。

- ・私たちの1つ上の先輩たちはものすごく機械化を研究した。だから日野図書館、浦安もそうだが、本庁より先にコンピューターが入っている。かつての図書館というのは、そういうことに非常に熱心に取り組んでいた。それが今は現場が忙しくなって、全然そういうことをやらなくなった。忙しいんだったらどこに力を入れるか。サービス、業務の優先順位を考えて、機構改革、機械化を考えていく必要がある。実際来館者の77%が貸出装置を使っている。これをいろんなところで話しているが、みんな驚いている。入れるまではみんな反対したり、首を傾げたりするが入れてしまえばあっという間に馴染むというのが図書館の機械化。40年現場にいるので分かるが、コンピューターもそう、BDSもそう。何でもみんな最初は反対して、でも入るとすぐ慣れるその繰り返し。AI、ロボットは単純作業と言われてきたが、今は中くらいの知的作業の時代に入ってきた。そういうのもぜひ積極的に検討していただきたい。そういう余裕を作るためには、先ほど話した非正規の方たちの仕事の内容のアップとセットで考えていただきたい。

- ・実績は順調だと私も思うが、怖いのはいわゆる「3年の壁」。ちょっと人気が出て、注目される図書館は、大体3年から5年の間に下っていきがち。3年から5年くらいで初代の職員が入れ替わってしまう日本独特の人事制度の影響もあるのではないかな。最初の



勢いをどうやって維持していくか。それが当面の課題。ぜひ乗り越えていただきたい。

#### 【事務局】

\*議事（2）「今後のスケジュール」について説明

#### 【委員】

・今後の計画について、アップデート的なところで言えば、今回のサービス計画には入っていないものも若干ある。1つには先ほど委員が言われたような、AI とかの機械化の今後の展開を踏まえて次の計画にどう取り入れていくかということ。

・もうひとつも先ほどお話があったが、防災などの問題について。課題解決型図書館となっているが、そろそろ強い言葉を使って「指定課題解決型」と。高知県の状況を踏まえると決しておかしくはない。今までのサービス計画を踏まえてさらに一歩進むという観点から、科学館が活躍しているというお話もあったので、それも含めながら、強力で解決する課題があるだろうと思う。

・釈迦に説法だが、著作権法の改正によってサービスが進展できるものはいくつかある。基本構想委員会の時に「ネットワークでレファレンスすればいいのではないか」と言ったら「今の著作権法では電子的送信ができないから駄目です」と言われた。それが改正される見込みなので、オーテピアに座っている司書の方が、市町村図書館とのネットワーク経由でレファレンスすることは著作権法の侵害とまでは言えず免除になるという見込み。つまり「こういう本があるので、物流で取り寄せてお読みになれば勉強になりますよ、目次はこんな感じです」というくらいであれば、新しい改正著作権法ではできるので、そういった意味でもう少しネットワークを使ったサービスができるのではないか。

・情報発信の面では、利用者からビブリオバトルに出てくるような素晴らしいコメント等をずっと図書館のサーバーに置いて読んでいただくとか。情報発信の可能性という意味で、いくつか前回の計画には入ってなくて今後検討する課題かと思っている。

#### 【委員】

・市民図書館だと、市民をもうちょっと巻き込む感じでやっているところが出てきている。市民ワークショップを何回もやる。ここは縣市合同なのでなかなか難しいが。地区別に全公民館で一回りワークショップをやる。ただ意見を言うだけではなく、市民に当事者意識を持ってもらう。つまり要求ではなくて、「一緒に図書館を運営しましょう」と。ただ一般的な要求だと、相矛盾する要求などが出てくる。それを当事者になったつもりで、どの辺がいいのか、コストの問題などについて市民が自分でワークショップの中で考えていくことを行い、地域で一回りする。松戸などがそう。

・例えば、県立図書館は県内市町村図書館で1回はワークショップをやるとか。それは現場の職員だけでは無理なので、それが得意なところに委託して、ワークショップの計

画を出させて事務局をやらせる。記録も全部その業者に取らせて報告書も作らせる。そのあとで、これまでやってきたような公的機関や連携先の方々も組み込んでもう1回「図書館は役に立っていますか」というイベントを実施する。そういった形で進めていけたらと。

- ・図書館は最もPRが必要な組織だと思う。PRというのは、ただポスターを出すなど一方的にするのではなく、現場の方と一緒にやっていくこと自体がPRになる。ワークショップに参加した人たちは、普通の市民との橋渡しになってくれる。無茶なことを言う市民に対して、ワークショップを一緒にやった人たちは説得してくれる。だから図書館の味方を増やしていくことになる。うまくいけばそれが期待できる一方で、紛糾する可能性もあるが、それも必要ではないか。

- ・機械化をどう進めるか。次の計画は今からちょうど5年先になるが、この5年間の進歩は凄まじいと思う。その時に全部機械に任せるのではなくて、人間がやらなければいけないところに、人のマンパワーを上回せるために機械化する。それから多様性。貸出しも、貸出しの機械に全部やってもらうのではなくて、やはり人にやってもらいたい人もいるし、自分で貸出機でやりたい人もいるし、ゲート通るだけでやりたい人もいる。そういう多様性を担保するのと、最終的なマンパワーを集中するという2つが機械化のポイント。それは全国に先んじて高知モデルになる。

- ・スケジュール表に「評価とは、評価点をつけるのではなく、取り組みに対する成果や課題を洗い出すこと」という記載がある。これに関しては、図書館の評価は古いものしかないの、先ほど話したような、商店街の活性化がどの程度できているかを数値で証明するようなことができれば。図書館は科学的にちゃんと評価をしないといけないし、エビデンスが重要。エビデンスの取り方も、新しい高知モデル。図書館の活動がどういう効果を地域に生み出しているか、という新しい評価方法を作っていけたら、今度の計画に盛り込めたらと思う。

#### 【事務局】

- ・ワークショップについては地域住民とやれたら本当にいいと思うが、市民図書館では市内の6分館・15分室は地元団体が運営しているので地元の住民と話をする機会もあって、ワークショップにはならないが、例えば春野町の図書館運営委員会で、図書に関する知識のある人の意見をもらうなりする。そういったことから展開に入れていきたいと今の段階で思っている。ご意見を参考にしながら今後もやっていきたい。

- ・数字というのは、売上げ高か。

#### 【委員】

- ・そう。図書館と関係ないような数値を集めて結果的に図書館が効果を出しているという。

【事務局】

・国の統計調査の中で、本当にピンポイントだが、商店街の売り上げがどう伸びたか。ここの商店街だけの数値は出ないが、大きい街、高知街中心地域の数値は取れるので、ぜひそれは取っていききたい。他にも何か数値を取れないか、というところを探っていきたい。

【委員】

・議会答弁に使えるか。

【事務局】

・ぜひ良い数値ができれば、と思う。

【事務局】

・通行量の調査は6月と12月にやっている。この6月だと平日前年比105.1%、休日は前年比約120%で増えている。

【委員】

・平日の方が伸び率が大きい？

【事務局】

・去年の7月24日にオープンして、その年の12月にも調査している。その時には平日は前年比99%でほぼ変わらず、休日は前年比121%。6月時点では、平日の方が5%くらい伸びている。開館してから4カ月程度では、休日しか伸びてなかったが、1年後くらいで見たら両方とも通行量は伸びている。

【事務局】

・調査した時の天候もある。

【事務局】

・前の12月は雨の日だった。

【委員】

・平均移動法という統計的手法で処理をすれば、小さい天候の影響も査証される。

【事務局】

・定期的な中心市街地の数字は拾っている。数字はいっぱいあるので、使えるところは

使っていく。

【委員】

・アピールしないともらったいない。

【委員】

・図書館要覧があるが、それも広く考えれば、我々オーテピアには立てた目標と達成目標がある。その達成度を示すようなパート2みたいなものを作って、これが県市合同でやっている活動のエビデンスだと示せるものがあるといい。ものの考え方だが、我々の病気疾患の判定もほとんどが数値的なもの。賛否両論あるが、一つの目安になる。そう考えると、我々のミッションに関係のある達成度を示す数値化はできる限りやったほうがいい。大変でしょうけれど、お考えいただきたい。

(以上)